

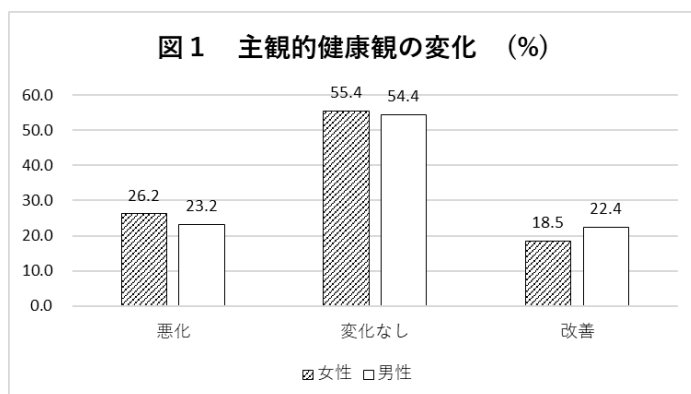
第6回「中高年者の生活実態に関する継続調査」結果の概要 ーコロナ禍の中高年者たちの気持ちの変化ー

2020年1月、日本にて新型コロナウイルス感染症（コロナ）患者が確認されて、もう2年にもなろうとしています。2010年より2年ごとに実施している「中高年者の生活実態に関する継続調査」第6ウェーブの結果について、気持ちの変化を中心にお知らせします。また、本概要においては、2020年5月に第6回調査回答者に対して実施した特別調査の結果を合わせて、2020年コロナ禍に入った頃の状況について示します。本結果の分析対象者は、60歳以上の男女1,732名で、詳細な分布は表1に示すとおりです。

<2020年1月と5月の間の変化>

第6ウェーブ調査を実施した1月と追加調査をした5月の間の変化について確認します。就労状況について、分析対象者の男性45.9%、女性35.4%は、2020年5月時点で就労状況にあり、大きな変化は確認されませんでした。あえていうならば、1月時点で就業状況にあった女性の1割が不就業となりました。

主観的な健康状態についての質問について比較してみましょう(図1)。男女ともに半数は、自らの健康状態についての回答に変化は認められませんでした。変化が確認された者に着目すると、女性の方が健康状態が悪いと回答する者が増え、健康状態が比較的良いと回答するのは男性に多く認められました。ただ、ここでの差は大きいものではありませんでした。



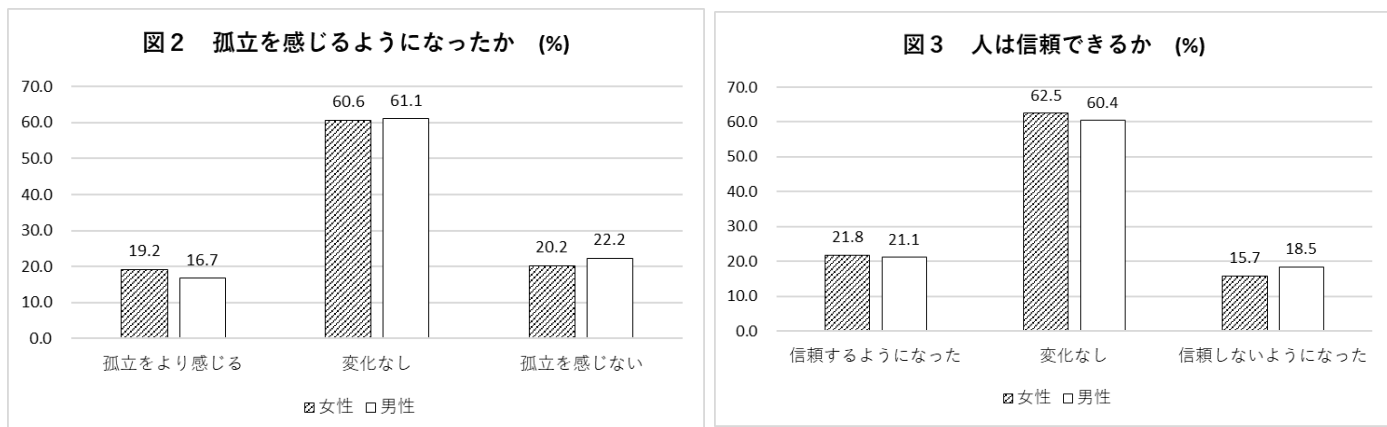
と、孤立感の上昇は女性の方に多くみられ、男性については孤立を最近あまり感じないという回答への移行が多くみられました。ただ、両者の差は小さく、男女共に過半数は孤立感の回答に変化は見られませんでした。

表1 分析対象者の基本統計 (%)

| | 女性 | 男性 |
|-------|------|------|
| 年齢分布 | | |
| 60代 | 37.4 | 34.7 |
| 70代 | 44.1 | 44.8 |
| 80代 | 18.5 | 20.4 |
| 配偶関係 | | |
| 未婚 | 3.6 | 4.8 |
| 有配偶 | 65.3 | 86.8 |
| 離婚 | 5.2 | 3.0 |
| 死別 | 25.9 | 5.5 |
| 家族類型 | | |
| 一人暮らし | 15.3 | 7.4 |
| 夫婦のみ | 35.5 | 49.1 |
| 子と同居 | 41.0 | 35.4 |
| N(度数) | 871 | 861 |

次に、孤立感や信頼感に関する変化をみてみましょう。まず、「最近、孤立していると感じることがありますか」という問いの回答について、4か月間で比較してみると、男女ともに変化が確認されたのは4割程度でした(図2)。男女別に変化の方向をみてみる

信頼観（「一般に、たいていの人には信頼できると思いますか。それとも用心するにこしたことはないと思いますか」という問い）に対して、①全面的に信頼できる、②信頼できる、③どちらかといえば信頼できる、④どちらかといえば用心すべき、⑤用心すべき、⑥全面的に用心すべき、の選択肢に回答）、についての回答の変化をみたのが図3です。男女ともに6割近くが回答に変化はありませんでした。一方、信頼しないようになったと回答するものは、女性に比べて男性に若干多い傾向がありました。



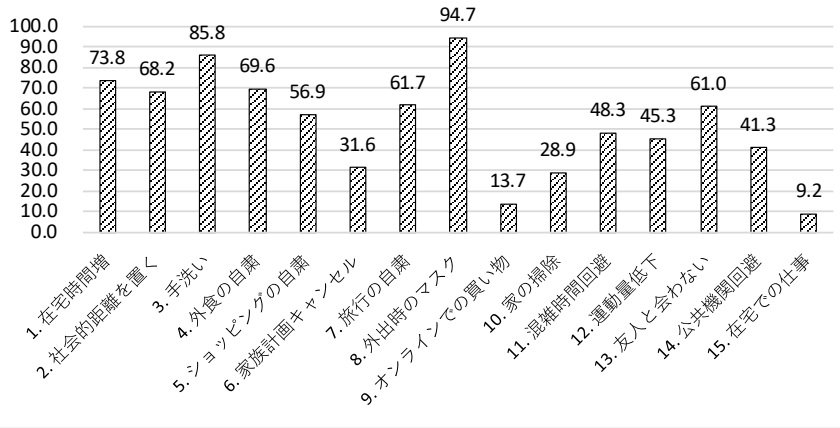
<コロナ禍にあつての生活上の変化・気持ちの変化>

コロナ感染拡大に伴って、生活やお気持ちの変化について質問しました。ここではいずれの場合も複数回答です。図4は生活上の変化についてです。マスクや手洗いについては、大多数が変化として回答しましたが、オンラインでの買い物や在宅での仕事を変化として回答した者は少数派でした。対象年齢が60歳以上であることもその背景にあると考えられますが、変化があると確認するにはその変化の元なる行動がなくてはなりません。具体的には、そもそも仕事に従事していなければ、在宅で仕事をするようになったといった変化はありません。

時間の変化（図5）については、テレビを見るようになったとの回答が最も多くみられました。料理の時間が増えたとするのは、女性の間で多く確認されました（結果省略）。気持ちの変化（図6）という点では、コロナ感染確率が高い者への配慮が確認されました。孤独感や不安感の男女差について言及したが、コロナ禍で孤独を感じるようになったと回答した者は1割も満たない少数派ででした。

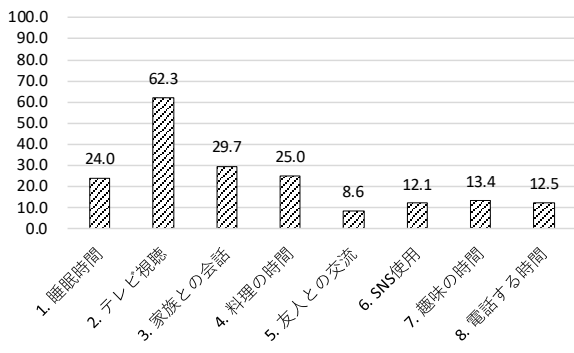
コロナ禍に伴う生活上の変化は、時間の使い方については特に、コロナ感染拡大前の生活様式があつて、その変化をどの程度認識するかと関連しています。事実、旅行に行かなくなったとか、外食をしなくなった、と回答した者は、コロナ前は旅行に行っていた、外食をしていたということになります。コロナ禍はすでに存在していた格差を露呈させたと指摘されるところですが、まさしくコロナ禍前にどのような生活をしてきたかがその後の変化を規定しています。

図4 生活上の変化(%)



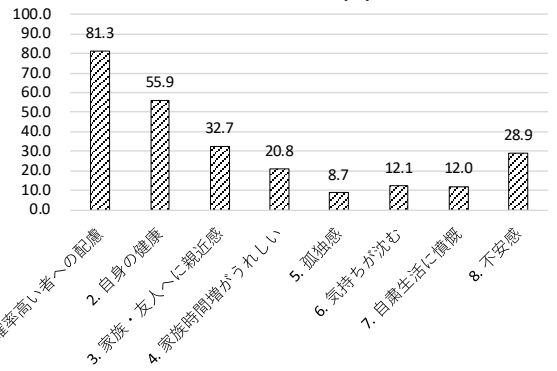
1. 自宅で過ごす時間が増えた
2. 人と人との距離（社会的距離）を広くとるようになった
3. 手をよく洗うようになった
4. レストランやバー等での飲食を控えるようになった
5. ショッピングに出かけなくなった
6. 家族との計画をキャンセルした
7. 旅行に行かなくなった
8. 外出時にマスクをつけるようになった
9. オンラインで買い物をするようになった
10. 家の掃除をよくするようになった
11. 買い物の際、混む時間帯を避けるようになった
12. 運動量が減った
13. 友達と会わなくなった
14. 公共の交通機関を使わなくなった
15. 在宅で仕事をするようになった

図5 時間の変化 (%)



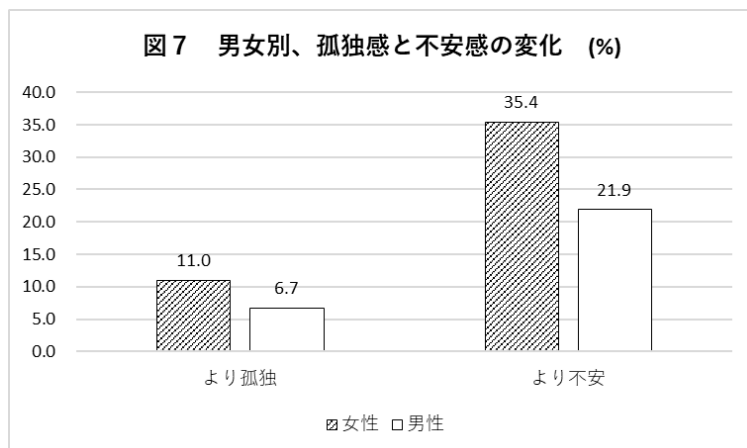
1. 睡眠時間が長くなった
2. テレビをみる時間が長くなった
3. 家族と話す時間が長くなった
4. 料理をする時間が増えた
5. 友人と交流する（メール等含む）時間が長くなった
6. ラインやツイッター等SNSに費やす時間が増えた
7. SNS以外の趣味に費やす時間が増えた
8. 電話をする時間が増えた

図6 気持ちの変化 (%)



1. 高齢者や持病をもつ者といったコロナ感染しやすい人のことが心配である
2. あなた自身の健康が心配だ
3. 家族や友人たちをより近く感じるようになった
4. 家族と過ごす時間が増えてうれしい
5. 孤独を感じるようになった
6. 気持ちが沈むようになった
7. 自粛に伴い、自由が制限されたことへの腹立たしさを感じる
8. 不安な気持ちなる

最後に、図6で全体の状況をみたが、男女別にコロナ感染拡大前との気持ちの変化についての比較をみてみましょう。図2や3でみた比較と図7の違いは、コロナ感染拡大にあつて、どのような変化がありましたか、とコロナ禍であることを明示的に質問項目にいれたことです。その結果、女性は男性に比べて不安や孤独を感じるようになった、と回答した者が有意に多い結果を得ました(図7)。



そこで、女性は男性に比べてコロナ禍といったリスクに敏感なのでしょうか。この問いについては、今後慎重に検討する必要があります。なぜなら、今回のコロナ感染拡大は三密の防止という観点から日常生活を直撃し、その生活を主に切り盛りしてきたのが女性であるという事実があります。本調査は引退期にある者も少なくなく、家庭で過ごす時間が現役時代よりも増えている者も少なくありませんが、家事や看護・介護といった生活に関わる程度は平均して女性の方が長いのです。例えば、2018年に実施した第5ウェーブ調査での平日の家事時間平均について、女性は264.3分、男性が74.3分、という結果を得ました。第6ウェーブについては、同様の値が女性251.9分、男性79.7分でした。ここでは、男女共に無職の者を対象に平均値をみていて、生活時間からみても、女性が深く日常生活に関わっていることが確認されました。

このように、コロナ禍前から存在していた仕事を含む生活時間の使い方は、男女の間で格差をもって存在しており、その前提がコロナ禍での気持ちの変化にも表れていることが本調査から示唆されました。

東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究代表者 白波瀬佐和子

2022年1月下旬から2月下旬にかけて、第7ウェーブの調査実施を計画しております。ぜひ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。